

複数存在する真実 —Alternative facts



松尾 式之

アメリカ史の授業を長年にわたり担当したが、自分が教壇に立ってのべる事は間違いない真実なのか、という疑念にたえず付きまわっていた。歴史上の出来事は動かしがたい真実に思えるが、実はそうではないからだ。たとえば北アメリカの先住民は採集狩猟文化のもとにあったとするのが定説だが、マヤ文明に匹敵する高度な農耕文明がミシシッピ川岸に存在したことが明らかになってきた。

第二次世界大戦中のフランクリン・ローズベルト大統領は、自由と民主主義のために戦ったが、ホワイトハウスから圧力をかけて息子の商売の便益を図った事も知られるようになった。ウォーターゲート事件で失脚したリチャード・ニクソン大統領には、心理学の手法を用いた新しい解釈が出ている。

芥川龍之介の作品に『藪のなか』という佳作がある。殺人と強姦という事件をめぐる目撃者や関係者7人が口を開くのだが、それぞれの語る内容が微妙にずれていて、何が本当か定かでない。同じ事柄でも複数の視点から描くとかいうことが起こりがちで、それを「内的多元焦点化」と言うのだそうだ。白黒で割り切れない錯綜した真実は、芸術家などの想像を掻き立てるらしく、『羅生門』『去年マリエンバードで』などの映画製作のヒントになった。

あやふやな事実があるというのは目新しい事ではない。戦争中の大本営発表もそうだが、企業の業績など大企業の言う事を鵜呑みにできないとする雰囲気もある。現代の若者の多くは新聞の記事をあまり信じない。客観的な事実が重視されない「ポスト・トゥルース」の時代だなどとも言われる。

などと考えていたら、今年の初めにドナルド・トランプ大統領が誕生した。選挙運動中から根柢が希薄な

発言が多く、大統領となってもこの傾向は変わらない。そしてトランプ政権は、思いもかけない知的なざわめきを引き起こしている。大統領補佐官ケリーアン・コンウェイが、大統領就任式を見物した観衆の頭数をめぐる言い争いのなかで、「それは alternative facts でしょ」と言い放ったのである。alternative とは「どちらか1つを選ぶべき」「代わりの」という意味の形容詞だが、ここでは「別の見方をすれば」くらいの表現だろう。

コンウェイの発言を受けて、事実には別の見方があるとする考えはジョージ・オーウェルの近未来小説『1984年』の主要テーマだという指摘が、「ニューヨーク・タイムズ」でなされた。そこでこの小説を入手しようとする騒ぎとなった。通販サイトのアマゾン（アメリカ）では3日間でこの本が9,500パーセントの売り上げ増となり、短期間で在庫がなくなった。版元のペンギンブックスは急遽75,000冊の増刷を決めたという。

オルタナティブ・ファクトとは、虚偽のことだと決め付けるメディアもあるが、ワシントンで法学を教えるロバート・ストーカー教授によれば、この表現は法律用語だという。つまり法律の世界でも複眼的な事実の存在が認められている。

今回、大修館書店から『列伝アメリカ史』を出版する事になったが、教壇からの一方的発言を反省して、できるだけ多様な視点から15人の人物を取り上げ、複雑性のなかにある歴史を描こうとした。もちろん最終章にはトランプ大統領に登場願った。著作がどういう種類の真実として認められるか、今から楽しみでかつ不安なことである。

（まつお かずゆき・上智大学名誉教授）

次期学習指導要領改訂の方向性

——高校入学前に中学生が身に付けてくることが

平木 裕



■はじめに

時あたかも、小学校及び中学校の次期学習指導要領改訂に向けた動きがいよいよ大詰めを迎えている。平成26年11月に文部科学大臣からなされた「諮問」を受けて中央教育審議会での審議がスタート、約2年がかりで延べ218回に及ぶ各種部会やワーキンググループ（教科等レベル）等での議論を重ね、その集大成として平成28年12月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下、「答申」）が提出された。

この「答申」は、改訂の方向付けとなるものであり、平成28年度末に予定されている新しい学習指導要領の告示案もすでに公表され、最終的な調整段階に入ったと言える。なお、高等学校については、平成29年度末の改訂が見込まれている。

■改訂のポイント

「答申」では、「外国語」の「現行学習指導要領の成果と課題」において、次の点を課題の一つとして提示している。

「学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。」

この課題への対応として、

- 各学校段階の学びを接続させる
- 小・中・高で一貫した目標を実現する
- 小学校中学年段階から児童生徒の発達段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現

力等」を一体的に育成する目標を設定するといったことが求められている（「答申」における掲載順）。

さらに、「小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容については、中学校の言語活動において、具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し触れ、生徒が必要な語彙や表現などを活用することができるようにする」（中学校の外国語教育における改善・充実）、「必修修科目（特に学習の初期段階）において、中学校の学び直しの要素を入れる」（高等学校における科目構成の見直し）など、学びの接続のイメージ化も図られている。

このように、今回の改訂においては、小学校・中学校・高等学校を通じて、一貫して展開する外国語教育の姿がある。小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと、滑らかに接続する外国語教育である。そこで本稿では、特に中学生について、新教育課程ではどのような資質・能力を身に付けることが求められるのかを「答申」に沿って解説することにより、高等学校における指導や評価の参考にしてほしいと考えている。

■中学校はどう変わる？

中学校の学習指導要領の改訂に触れる前に、小学校について、今回の改訂における注目点を簡単に解説しておきたい。

ご存知のことと思うが、小学校では、現行の教育課程において年間35単位時間程度行われている外国語活動が中学年（第3・4学年）に導入され、

高学年（第5・6学年）では教科としての学習（年間70単位時間程度）となる。教科として位置付けるに当たっての方向性としては、「外国語の基本的な表現について『聞くこと』や『話すこと』などのコミュニケーション能力の基礎を養う体系的な指導を行う」ことや、「発達の段階に応じた『読むこと』『書くこと』に慣れ親しみ、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする態度を育成する」といったことが示されており、コミュニケーション能力の基礎を養う体系的な指導を行うもの、という印象が強くなっている。

そうした小学校での外国語教育を踏まえ、中学校での指導はどのようなものか、「答申」（「別添資料」を含む）における関連部分を取り上げるとともに、必要に応じて平成28年8月の「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（以下、「取りまとめ」）にも言及しながら、改善のポイントを解説したい。

まず、教科の目標のイメージとして、「答申」では「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力」の育成を掲げている。「理解する」「表現する」「伝え合う」をセットで示している点に注目したい。また、「聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信する」統合的な言語活動の必要性も明確にしている。関連して、「取りまとめ」には、

○対話的な言語活動を重視する

○授業は外国語〔英語〕で行うことを基本とするなど、中学校における基本的な指導イメージが示されており、高等学校入学前の「基礎体力」としては現行以上のものが期待されている。中・高の接続という観点からの今次改訂における改善点が浮き彫りになっていると言えよう。

一方、「答申」には「小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容については、中学校の言語活動

において、具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し触れ、生徒が必要な語彙や表現などを活用することができるようにする」という記述もあり、教科としての小学校からの接続を図る視点が強調されている。

さらに、これは全学校段階・全教科等に共通することになるが、「育成を目指す資質・能力」として次の三つの柱で整理されたこととの関連について触れておきたい。

①何を理解しているか、何ができるか

②理解していること・できることをどう使うか

③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

それぞれの柱のポイントは、

①→生きて働く「知識・技能」の習得

②→未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

③→学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

ということになるが、いずれも外国語教育には欠かせない視点である。つまり、必要な場面で生かせる知識・技能、相手の発話や与えられた状況にその場で対応する必要がある言語活動の工夫、コミュニケーションの目的や場面、状況などが明確になることによる自分自身との関わりの実感、といったことになろう。

■おわりに

以上、これからの外国語教育が目指すものを中学生的姿にフォーカスしながら述べてきた。これを参考に、彼らを高等学校ではどのように受け止め、どのような授業で「歓迎」するのか、今から思いをはせてほしい。そのためにも、新しい学習指導要領で小学校及び中学校の具体的な目標や内容等をしっかり把握しておいてほしい。

（ひらき ひろし・文部科学省 教科調査官）

Genius

English Communication

Genius English Communication から
始まる本物の学び

松尾美幸



■はじめに

Genius English Communication (以下 *Genius EC*) I を使って授業を行うようになって4年になる。採択当初は、「本校の生徒たちには高度すぎるのではないか？」という懸念も英語科スタッフの中にはあった。しかし、「内容が面白ければ生徒たちは自ら学ぶ」という信念と、学習到達目標、教授方法を全員で共有して指導した結果、教員側の心配をよそに、*Genius EC I* から *Genius EC III* を使って英語学習を全うした初代 *Genius* っ子たちの約8割が「英語の勉強が好き」と胸を張って答えて卒業した。高校入学前は英語が苦手で嫌いだったというある生徒はこう話した。「一読しただけでは英文の意味が曖昧でも、授業中に霧が晴れてぱっと視野が広がる瞬間があるのです。その快感がやみつきになって、もっともっと英語を勉強したくなるのです。」英語力が“genius”とは断言できない(失礼!)勤務校の生徒たちに、英語学習が「やみつき」と言わせる秘密は何か。授業者として、また改訂版からは編集に関わった者の1人として、*Genius EC* の魅力を「3つのG」に沿って考えてみたい。

■ Genuine Communication

本物のコミュニケーション(技能・スキル)

Genius EC を採択した大きな理由の1つは、言語活動の組み立てが第二言語習得の理論にかかっており、4技能統合型の英語による授業に適していると確信したからである。リスニングとキーワードの導入からなる Warm Up で、学習者を

課のトピックに引き込み想像力をかき立てる。英文が書かれた目的に応じた読解活動を経て、パート毎に用意されたコンセプトマップを用いたストーリー・リテリングや口頭要約等のペア・グループワークにつなぐことができる。また、更に自由度の高いスピーキングを促すディスカッションやプロジェクトのためのテーマが各課に設けられ、思考を伴う協働的活動へと自然に発展させることが可能だ。「言語活動と言語活動をつなぐ」構成をなぞることで、「生徒と生徒をつなぐ」やりとりが豊かな授業が実現する。

■ Global Issues 本物の題材(知識・理解)

どんなに興味深い題材を扱っていても、生徒と教材の関わりが単に字面をなぞるだけで終わってはいはもったいない。生徒が教材と真正面から向き合い、自分の頭と心を揺さぶられる体験ができるか、すなわち「生徒と教材をつなぐ」深みのある授業ができているか。この問いかけに答えてくれるオーセンティックな題材が豊富なことも *Genius EC* の強みである。

例えば、*Genius EC II* の5課は、宮沢賢治の研究家・翻訳家として知られる Roger Pulvers 氏の書き下ろしである。生徒は同じ日本人として賢治の作品に込められたメッセージを読み解くと同時に、その中には真のグローバリズムを考えるヒントが潜んでいることに気づき驚くだろう。それを外国人筆者のことばを通じて知る経験は、自国文化理解と異文化理解が融合したような不思議な感覚を伴った忘れえぬ体験となるだろう。

Genius EC I の10課は、第二次世界大戦中にナチスの占領下で、自らの命を危険にさらしながら多くのユダヤ人の子どもの命を救ったポーランド人女性イレーナ・センドラーさんが主人公である。ホロコーストの悲劇について読み、生徒たちは戦争や差別の愚かさについて考える。そして翌年、*Genius EC II* の4課で、イスラエル兵に殺された息子の臓器を、病気で苦しむイスラエル人に提供したパレスチナ人の父親について学ぶ。苦悩を乗り越え、相互理解と平和を求める決断をした父親の心情について読むことで、生徒たちは人類共生の難しさと尊さを改めて認識するだろう。

筆者がこの課を授業で扱っていた時、リアルタイムでイスラエルとパレスチナ間の紛争が悪化した。紛争解決について安易に話し合えない程の状況に胸を痛めつつ、パレスチナ人、イスラエル人双方の複数の若者の手記を、本課とテーマを連携した多読教材 Read On! の英文の出典から探した。ジグソーリーディングの後に生徒たちは、「自分の友人の思い」の形で相互に内容を報告し合うという活動に取り組んだ。「先生、ヤバイよ、泣きそうだよ。」と言いながら「友人」の状況や思いを必死に英語で伝える男子生徒の姿が印象的だった。グローバルな問題を身近なものとしてとらえ、共感できる生徒。問題意識を持って自ら知識の収集に努め、問題解決に向けて意見を発信する力を持った生徒。その育成には、「生徒と実社会・世界をつなぐ」本物の題材が不可欠である。

■ Genuine Learning 本物の学び（姿勢・情意）

豊かな知識や高度なスキルがあっても、バランスのとれた健全な世界観を育まずに、多文化共生・共存に貢献しうる人材は育成できない。改訂版 *Genius EC I* では7課でスポーツにおける男女差別を乗り越えたラスティ・カノコギさんを、Read On! 7では黒人メジャーリーガーのジャッキー・ロビンソン選手を扱っている。差別のテーマは *Genius EC II* の10課、アパルトヘイト体制

下の南アフリカで公正な報道姿勢を追求し貫いた白人ジャーナリストの物語に引き継がれる。今も存在する様々な差別、そして平等、正義について真剣に考える好機となるだろう。

改訂版 *Genius EC II* で新たに登場した教材を2つ紹介したい。7課は、今年2月に亡くなったディック・ブルーナさんと、彼が生んだ「ミッフィー」が題材である。可愛いうさぎのキャラクターとしてしかミッフィーを知らなかった高校生たちは、ブルーナさんの子どもたちへの温かい愛情ゆえのこだわりや、シンプルなアートの込められた深いメッセージに驚くだろう。同じく Read On! 7は、日本が世界に誇るバレリーナの森下洋子さんが題材である。ブルーナさん、森下さんの両氏が芸術に向き合う姿勢は奇しくもオーバーラップする。「昨日よりも上手になりたい。」と英語を学ぶ高校生たちが「教材と自分をつなぎ」、自らの外国語学習に対する姿勢と重ね合わせつつ学んでくれたらと願う。

■ おわりに

Genius EC は、「世界がもし100人の村だったら」をプロローグとした3カ年にわたる壮大な地球絵巻である。今回の改訂により、題材の深み、厚み、広がりはそのままに、語彙や英文の複雑さのレベルを下げることで、生徒たちが学びやすい教科書となった。同時に、教員にとっても教えやすく、読解を超えた先の活動を編む余裕を楽しめるようになったと感じる。*Genius* がくれる教材の1つ1つが、高校生たちにとってかけがえのない幾多の「つながり」を生み、縦糸・横糸の密なカンバス地を形成してくれるはずだ。その上に、生徒たちが自由な世界観で思い思いに絵を描く、そんな授業を展開していきたいと願いながら、教壇に立つことが楽しくてたまらない毎日である。

（まつお みゆき・岩手県立福岡高等学校教諭）

Genius

English Communication

Genius English Communication I Revised のタスクを使ったスピーキングの評価

小泉利恵



スピーキングの評価では、タスクを生徒に提示し、タスクから引き出された発話を評価者が判定します。どんなタスクを出すか、誰が評価するかだけでなく、判定の際にどのような評価基準（採点基準、ルーブリック）を使うかも考えます。評価基準には、評価観点（評価規準）と判定基準があり、各観点においてどのように話せたら何点かを書き出す必要があります。明確な評価基準は、採点時に同じ基準で評価しやすくなり、ぶれが少なくなります。また、評価基準と評価例をテスト前後に生徒に提示すると、学習に結びつけやすくなります。

教科書に基づいた評価をどのように行うべきかを迷っている方を念頭に、本稿では、*Genius English Communication I Revised* の課末のタスク（Discussion と Project）を使ったスピーキングの評価についてまとめます。

■ Discussion と Project の評価基準

Discussion は、課の内容と強く結びついた問に答えるもの、Project は課のトピックを発展させる形で調べ学習を行い、それを発表するものとなっています。同教科書の *Teacher's Manual* には、各課の Discussion と Project それぞれに評価基準が載っています。同じ種類のタスクであっても、指導目標や評価の方法（生徒同士で会話する形か、クラス全体の前で発表するかなど）、評価の状況（授業中に聞いてすぐに評価するのか、録音して後で採点するか等）によって多様な評価基準がありえるため、表1のような選択肢を組み合わせ

て作った多様なタイプを入れてあります。紙面の関係でここでは解説を省略しますが、用語の詳細は小泉（2016）をご参照ください。

表1. 評価基準のタイプ

評価形式：総合的か分析的か (holistic vs. analytic)
記述形式（測る能力の種類）：タスク特有なものか一般的なもののか
評価観点（評価基準）：タスク達成度のみか、流暢さ（原稿参照の有無）、正確さ、やり取りの自然さ、質問への応答を加えるか
判定基準：3段階か4段階か

■ 分析的・タスク特有型・タスク達成度と流暢さの3段階の評価基準：Lesson 5 Project の例

(1) 評価タスク

Alex's Lemonade Stand Foundation の募金活動以外のプロジェクトについて、①いつ始められ、②誰が、どのように、どこで募金を行い、③どのくらいの金額が集まり、④何の目的でお金が使われるかを含めて、詳細に調べ、発表しなさい。

(2) 評価基準

	タスク達成度	流暢さ
A（十分満足できる）	(7) 下線部4点を述べている。かつ (1) 内容が詳細である。	10秒以上の長い沈黙がない。言い直しがあっても気にならない程度である。スムーズに話している。かつ原稿をほとんど見ていない。

B (おおむね満足できる)	(ア) のみを満たしている。	長い沈黙が1回ある。言い直しが多めで少し気になる程度である。話すスピードが遅めである。または原稿をたまに見ている。
C (努力を要する)	(ア) を満たしていない。	長い沈黙が2回以上ある。言い直が多い。話すスピードが遅く、理解に影響がある。または、原稿をほとんど見ている。

Teacher's Manual では、タスク達成度と流暢さがAの場合、Bの場合などの発話例を挙げています。評価基準の表現は一例であり、高校での指導実態に合わせて変えることができます。

■評価観点についての解説

(2)の評価基準を使って授業内評価の実践を行った結果も含めて、以下述べます。

「タスク達成度」では、聞き手に伝わるように話せているかがポイントとなります。タスクが求めている (ア) (イ) の要素を話に入れているかだけでなく、声が十分大きいのか、理解しやすい発音で話しているのかも見ます。原稿があると、早口になり過ぎたり、モゴモゴと話して何を言っているのかが分からなかったりする発表が多く見られます。その場合は、原稿としてはAでも、発話としてはBかCになります。判定が難しいのは、(ア)の要素に1, 2個抜けがあるが、(イ)の詳細は満たしている場合です。実践時には、(ア)で抜けた要素を詳細さで十分補えている時にはAとしました。

「流暢さ」については、原稿から目を離して話せない時にはCになります。原稿からある程度目を離しても、英語表現を十分頭に入れていない時には流暢さが低くなり、BかCとなります。普通、流暢さには原稿参照の有無は入れませんが、授業タスクの評価では原稿を作ることが多く、そ

の使用が話し方に大きく影響すると考えて入れました。

「正確さ」は、指導目標にあって指導もしているならば入れてもよく、また特定の文法・語彙項目だけに集中して見るだけならば実行可能な場合もあるでしょう。しかし、正確さ全般を1観点としての評価は難しいです。実際、1分程度の発話を一度聞いて、3観点を別々に評価することを、実践の前に評価練習として行ってみました。最初に評価基準を話し合っ調整しても、採点者間で評価はあまり一致しませんでした。「正確さ」は設けず、理解を妨げる重大な誤りが(複数)あった時に、「タスク達成度」の中で減点する形の方が現実的だと思います。

■外部試験のスピーキングテストとの関係

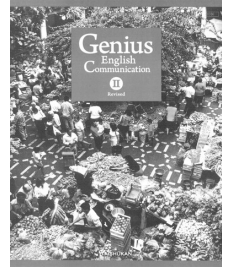
外部テストでは、準備時間が短いなど、タスクが異なるだけでなく、評価基準が今回紹介したようなものよりも詳細なことが多いです。そのような基準を学校での評価でも使うべきかと悩むかもしれません。しかし、外部テストでは、採点の客観性を高めるために評価者トレーニングを丁寧に行っていることが多く(例: Koizumi, Okabe, & Kashimada, 2017), それを前提としない学校の評価では詳細なものは求めすぎない方がよいと考えます。学校での指導に即した形で評価を行い、学習と指導の改善というサイクルを続けていけば、入試でも通用するスピーキング力につながっていくと思います。

【引用文献】

- 小泉利恵 (2016). 「ループリックを使ったスピーキングの評価」. 『英語教育』, 65(10), 34-35.
- Koizumi, R., Okabe, Y., & Kashimada, Y. (2017). A multifaceted Rasch analysis of rater reliability of the Speaking Section of the GTEC CBT. *ARELE*, 28, 241-256.

(こいずみ りえ・順天堂大学准教授)

Genius English Communication II Revised 改訂のポイントとデジタル教科書のご案内



編集部

■ *Genius English Communication* の編集方針

Genius English Communication (以下 *Genius EC*) は以下のような基本コンセプトをもとに編まれています。

- ①世界で起きているさまざまな事象・問題を、生徒に身近なこととしてとらえる視点を与える。
- ②4技能を統合した活動により、実践的な英語力の基礎を身につける。
- ③今後求められる学力要素である「思考力」「判断力」「表現力」を育てる。
- ④課題を自分で発見し、主体的に学びをすすめる「自律的学習者」を育てる。

これらのコンセプトを実現するため、*Genius EC* では教材の内容面からの動機づけが重要であると考えました。そこで、「人類の永続的な共生のために何ができるか」という視点から、生徒に自身の問題と考えられるような、リアリティがある題材を取り上げています。現行版の教科書を使用していただいた先生方からは、「英語の技能を身につけるだけでなく、世界に関する知識を深め、そして共生に必要な意識が育った」などのご評価を頂戴することができました。

■改訂版 *Genius II* の新規教材について

以上のテーマを元に改訂版 *Genius II* では引き続き教材を見直し、より基本コンセプトに沿った、高校生によりわかりやすい教材を検討いたしました。Lesson 2, Lesson 7, Lesson 9と3つの課に新教材を採用しました。多読用教材 Read On! では1つの文章を新規に掲載しました。

また、改訂版 *Genius I* と同様、現行版から流用した教材も難易度が下がるよう英文自体を見直し、とりわけ新語の数が多くならないように配慮しました。

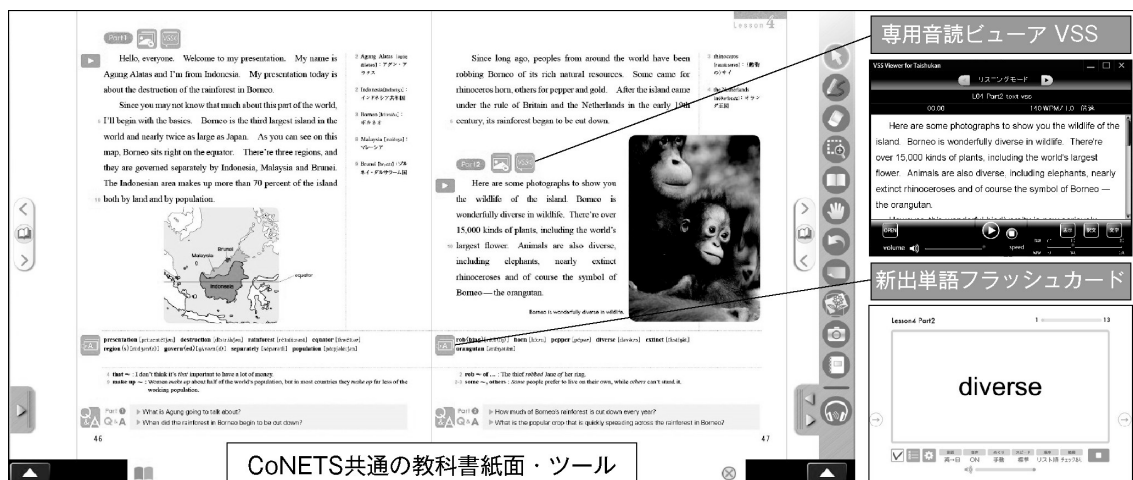
■改訂版 *Genius II* の教材紹介

Lesson 1 *Hanamizuki* はワシントンの桜の返礼として百年前に日本に贈られたハナミズキを取り上げて、忘れられていた交流の歴史について学びます。改訂版では交流百周年を記念して行われた行事のエピソードと、唯一原木が現存する東京都立園芸高校での植樹式に参加した歌手の一青窈さんの写真を新たに加えました。

Lesson 2 *Undokai in Marawi* は今回の新教材です。アフリカの小国マラウィ共和国で、日本人の協力の下に行われた *Undokai* の顛末を取り上げました。東京オリンピックを控え、日本の「運動会」を途上国に紹介して、スポーツの意義を伝えるプロジェクトからのエピソードです。マラウィで *Undokai* として受け入れられる様子を通して、異文化理解の実例を学びます。

Lesson 4 *Ahmed's Gift of Life* はイスラエル兵に銃で撃たれた息子の臓器を、イスラエルの子どもたちに移植することを決意するパレスチナ人の父親の話です。この実話は2005年のことですが、世界各地でいまだにやまない紛争を終わらせるためには何をすればよいのか、そのヒントとなることでしょう。

Lesson 7 *Dick Bruna* は今回の新教材です。世界中で愛されているミッフィー（うさこちゃん）



の絵本の作者で知られるディック・ブルーナさんの、そのシンプルな絵の背後にある綿密な創作作業や作品へのこだわり・姿勢を紹介します。そこから浮かび上がるのは、小さな絵本に込められた子どもたちへの深い愛情と配慮です。

Lesson 9 Justice with Michel Sandel も今回の新教材です。『白熱教室』で知られるハーバード大学サンデル教授の講義を紙上実況します。「他人を助けるために自らの命を犠牲にするべきか」など、正解のない問いをどう考えるか、臨場感あふれる対話形式で紹介し、ディベート指導にもつながる内容です。

■改訂版から新登場、指導者用デジタル教科書

Genius EC では教科書に対応した指導者用デジタル教科書を用意いたしました（上記写真）。教科書出版社13社が参加している CoNETS（コネッツ）のプラットフォームを導入した、指導者用デジタル教科書です。CoNETS の標準機能として、教科書紙面の拡大縮小、紙面への書き込み、さらに紙面を用いてオリジナル教材を作成したり、先生方が独自にリンクを設定することなどが可能です。また、追加コンテンツとして、「解答表示」、「映像資料（写真・動画）」、各パートに「追加 Q&A（各5問、音声つき）」を用意しました。

Genius EC の指導者用デジタル教科書では左記に加え、授業に役立つ次の2つの拡張機能を用意しました。

①専用音読ビューア VSS Viewer for taishukan

文字と音声のシンクロ再生が、好きな位置からクリッカー一つで行えるアプリです。文字の提示方法は「カラオケ（音声と同時にテキストの文字色が変わる）」、「フェードアウト（表示してあるテキストが音声とともに消えてゆく）」、「書き起こし（音声とともにテキストが表示される）」、「フラッシュ（段落ごとに表示）」から選択できます。音声のスピードは0.5倍から2.0倍まで設定でき、また、スラッシュリーディングにも対応しています。

デジタル教科書を起動せず、こちらの VSS 単独でもお使いいただけます。

②新出単語 フラッシュカード

「英語／日本語の表示順・有無」、「音声の有無」「めくり順（リスト順／ランダム）」、「スピード」などがカスタマイズできる、使いやすいフラッシュカードです。さらに、リストで任意にチェックした語のみを表示する機能もありますので、生徒の理解の程度に合わせた活用が可能です。

Compass

English Communication

現場目線の教科書

Compass English Communication

村越亮治



■はじめに

いま学校現場では、指標形式の教育目標に基づく授業実践、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習過程の改善が求められています。そのような状況のなか、英語の先生方がそれぞれの指導計画や授業デザインに基づき、ある程度の自由度をもって有効活用できる教科書づくりを目指して、*Compass English Communication* シリーズの編集・改訂を行ってきました。さまざまな教室での状況・現実を考え、つねに現場目線で作り上げてきた教科書であると言ってよいでしょう。

■ *Compass English Communication I, II* の紙面構成

原則的に1パート見開き完結型になっており、窮屈で難しい印象を与えないような紙面構成を心掛けています。左側ページの英文には、概要把握のヒントになる日本語でのリード文を示し、新出語句やイディオムに加えて、注意すべき語の発音も掲載しています。右側ページには、内容理解（Answer it!）や文法・表現の定着（Focus on it!, Check it!）・使用（Use it!）のためのさまざまなタスクが用意され、レッスンの最後には Review, Practice, Enjoy communication というポスティング活動があります（これらのタスク、活動についてはあとで詳しく述べます）。

■本文について

シリーズを通して、英文の題材は、生徒の身近

にあり、ある程度の背景知識や経験を持っているもの、話題の人物や最新の技術・科学、異文化に焦点を当てたものなど、多岐にわたっています。読んでいる高校生にどのようなメッセージを与えるかということを念頭に、教材の選択・執筆を行っています。トピックが新鮮なものかどうかということも採用時・改訂時の大きなポイントの1つになっています。英語としての自然さを最大限に考慮しながら、現場の先生方が文構造を説明する際に困らない（適切な日本語に置き換えられるなど）かどうかということを細かく吟味しています。

また、*Compass I* では、‘No BABES’ルールの順守、すなわち、文頭での But, And, Because, Especially, So の使用を避け、正式な英文ライティングの基本を暗示的に示すという配慮もしています。*Compass II* からは現代の英語使用の状況にならって、緩やかに許容しています。

■右側ページについて

Answer it! は内容に関する簡単な Q&A のタスクです。パラグラフの要点などについて英語でたずねる問題で、本文から比較的容易に答えを見つけることができ、複雑な言語操作をしなくても英語で答えられるようになっています。

Focus on it! ではターゲット文法を含む英文を取り上げ、簡単な文法構造、説明などを日本語で記しています。*Compass I* は、中学校既習の文法項目を基礎的なものからすべて復習できるようになっています。太字フォントや色分けした網掛

け、下線や矢印などによって、ポイントを明確に示しています。全体的に、授業のなかで文法解説にあまり多くの時間をかけないですむように、あえて必要最低限の記述にとどめています。

Check it! はターゲット文法の定着のためのドリル演習です。発信に使えるようになってほしい文法項目については、空所補充や語順整序のタスクに、意味理解ができればよいと判断したものについては、日本語で意味を考えるタスクに仕立ててあります。あまり文法指導の負担がかからないように2題の設問にとどめています。

Use it! はターゲット文法や英文トピックに関連する表現の使用練習のためのタスクです。言語の使用場面や働きを簡単に示すために会話形式にしています。生徒の英語力、活動時間などに応じて、Hint Box の選択肢を使わせたり、独自に考えた英語を使わせたりと難易度の負荷を調整することが可能です。

■ポストリーディングの活動について

Review は、リスニングの正誤問題と、読んだ内容を別の形式で整理させる information transfer のタスクからなっています。

続く **Practice** は本文で扱われている、重要な文法・表現・語彙を振り返って学習するためのページです。**Practice A** ではイラストによって具体的な場面を示すことで、context とセットで文法項目を復習できるようにしています。使う語を示し、空所補充のタスクにすることで、生徒にとっては答えやすく、また解答が多岐に渡り過ぎないようにしています。**Practice B** は、日本語をヒントに空所を補充する形式によるイディオムの復習で、原則的に本文（左側ページ）の脚注に立項してあるものを扱っています。**Practice C** は語彙の問題ですが、同一品詞の語からなる選択肢から文中の空所を補充したり、対になる2語から適切な語を選んだり、文脈と語頭の文字から適切な語を書かせたりする形式があります。いずれも、

生徒が無理なく自分の力で言語知識の復習ができるような工夫がされています。

Enjoy communication はレッスンのトピックやジャンルに関連するスピーキング／ライティング活動です。表現のポイントや Hint Box、例文や枠組みを示すことで、無理なく活動できる工夫をしています。より発展的な活動（Challenge）も用意されています。また指導書には、教科書本体にある活動や指導書収録の関連活動のための評価ルーブリックを載せ、それらの活動をパフォーマンステストとして使ったり、授業中の活動として生徒たちに相互評価させたりすることができるようにしています。

■改訂版 *Compass II* の特徴

一番の改訂ポイントはボリュームダウンです。10のレッスンのうち、Lesson 1, 2, 3 については従来の4パートから3パートに削減し、各パートの英文についても再編集しています。Lesson 4以降も1パートの英文の分量を抑え、負担を減らしています。それによって、*Compass I* からのレベルアップの度合いがとても緩やかになりました。また、テキストを減らした分、写真や図表などの拡大・追加・差し替えも可能になり、より親しみやすく易しい印象になっています。

■おわりに

くり返しになりますが、この *Compass English Communication* の教科書は、親しみやすくメッセージがある題材、無理なくカバーしきれる分量、先生方が説明に苦慮しない英語使用、柔軟に活用できるタスクや活動、ということを主眼に、現場目線で、教室現場で起こりうることを想定しながら作ってきました。この教科書がより多くの学校で、楽しみながら4技能を伸ばせる英語授業のお役に立てることを願っています。

（むらこし りょうじ・神奈川県立国際言語文化アカデミア講師）

Compass English Communication I Revised

さらに充実した指導資料のご案内

編集部

Compass シリーズの教科書の魅力は、教科書紙面に要素を盛り込みすぎないシンプルさですが、そこにプラスして授業をふくらませたり、学習の定着を確かなものにするための指導資料を充実させています。改訂版ではさらなる充実を図り、新しいアイテムもご用意しましたので、ポイントをご紹介します。

*

教師用

Compass の指導用教材は、「教授用指導資料」セットと「指導用音声 CD」を用意しています。

■「教授用指導資料」の内容

「教授用指導資料」セットには以下の 5 点のアイテムが同梱されています。

- ① Teacher's Manual
- ② Teacher's Book
- ③ 情報資料集
- ④ 指導用 CD-ROM
- ⑤ 指導用デジタル教材集 DVD

① 補充問題や例文を充実させ、パフォーマンステストの実施例・評価例を提案：

Teacher's Manual

ターゲットの文法や、新語・新フレーズを中心に、生徒が本文を読む時に注意が必要な箇所をピックアップして解説をし、新語・新フレーズについてはなるべくその語(句)を使った例文を『ジーニアス英和辞典 第 5 版』などから提示していま

す。改訂版から解説や例文をより充実させ、教科書に+α できる情報を盛り込みました。

新しく加えた要素としては、

- ・そのパートのテーマや文法事項に応じて、生徒の関心を高める導入の工夫と留意点と、一例としての対話例を「オーラル・イントロダクション例」として提示しています。なお、その際に使えるビジュアル素材は「指導用デジタル教材集 DVD」内にご用意しています（後述）。
- ・教科書掲載の図版について、キャプションに盛り込めなかった情報も紹介しています。ビジュアルから教材に興味を引かれ、本文の理解につながる授業を目指します。
- ・教科書掲載の内容理解問題（Answer it!）だけでは足りない場合に補充していただく、また定期考査などにも使っていただける内容理解 T/F 問題を用意しました。データは「指導用 CD-ROM」に収録しています。
- ・ターゲット文法を使った補充例文を、主に『ジーニアス英和辞典 第 5 版』から用意しました。未習語や未習文法をなるべく避けた例文を選ぶように心がけています。データは「指導用 CD-ROM」に収録しています。
- ・Enjoy Communication で扱った言語活動を発展させたパフォーマンステストの実施例を紹介します。テストの手順および、評価ループリックの例と評価における留意点を提示しています。定期考査でパフォーマンステストを行う際のヒントとしてお役立てください。
- ・各レッスンの英文要約例（レッスン全体の要

約：約40語，パートごとの要約：約30語）を収録していますが，その音声データを新たにご用意しました（「指導用音声CD」に収録）。内容理解の活動や，テストなどにご活用ください。

②補充問題・補充例文も新たに掲載：

Teacher's Book

教科書と同サイズで，教科書紙面に日本語設問の英訳や設問の解答，指導用音声CDのトラック番号，リスニングスクリプトなどを記載し，本文にはスラッシュを入れています。改訂版から新たに，英文要約例，内容理解補充問題，ターゲット文法の補充例文などを記載しています。

③そのまま配っても，アレンジしても：

【新】情報資料集

改訂版から新規にご用意しました。従来，Teacher's Manual内に掲載していた題材についての背景知識や関連情報を，読みやすく別冊の形にまとめて，さらに情報を充実させました。授業の導入や，発展的学習，活動のための資料などにお役立ていただけます。

教師用は各レッスン4ページで，教材の背景知識や，関連する情報について詳しく説明しています。教科書未収録の図版を多数掲載し，さらなる情報源として参考文献やウェブサイトも紹介しています。生徒用は各レッスン見開き2ページで，教師用ページに掲載した内容から特に生徒の学習を深める情報を厳選してまとめました。教材の理解を深め，かつ知的好奇心を満足させる楽しい読み物として，そのままコピーして配付していただくこともできます。また，ワードデータを用意していますので，先生がカスタマイズして使っていただくことも可能です。

④小テストから定期考査，授業プリント作成まで アレンジ自在なデータ満載： 指導用 CD-ROM

改訂版から，データのご提供はCD-ROMとDVDの2枚組になりました。まず，「指導用CD-ROM」には，教科書データや各種資料データと，英単語・熟語自動問題作成ソフトを収録しています。

〈英単語・熟語自動問題作成ソフト〉

各レッスンの新出単語・熟語を使った小テストが作成できるソフトです。シンプルな単語テストから，教科書本文や発展的な補充例文を使用した設問も出題できます。既存レッスンを保存したり，各クラスで同じ問題を出題しないなどの管理も可能です。



〈教科書データ〉

- (1) 教科書本文 (text/Word)
- (2) 教科書本文 PDF
- (3) 【新】教科書新語／フレーズデータ (Excel)：英語／品詞／日本語訳の一覧表
- (4) 教科書本文英文要約例 (Word)
- (5) 教科書本文訳例 (text/Word)
- (6) 教科書本文原典 (Word)
- (7) 教科書本文スラッシュリーディング (Word)：英語・日本語対照，A4判
- (8) 教科書リスニングスクリプト (text/Word)
- (9) 教科書解答一覧 (Word)
- (10) 【新】教科書写真・図版データ集 (JPG)：教科書に掲載した写真・グラフ・地図などの図版（教科書掲載以外の図版は「デジタル教材集

DVD」に収録しています。)

〈資料データ〉

- (1) 授業プリント集 (Word)： 文番号・音読用スラッシュ入りの教科書本文と各種補充問題、本文の穴埋め問題、summary 穴埋め問題等で構成された、プリント用の素材集です。赤字解答入り／なしを選べて、そのまま印刷して配付していただく以外に、自由に先生がカスタマイズしてお使いいただけます。
- (2) 評価問題集 (Word)： 定期考査などでお使いいただける問題例集です。1 レッスン100点満点／B5判 2 枚で構成されているので、そのままコピーして配付していただけます。
- (3) 学習ノート (PDF／Word)： 別売の副教材『学習ノート』データを収録。
- (4) 【新】 情報資料集 (Word)： 『情報資料集』の内容をレッスンごとに収録しています。必要な情報を抜き出してプリントを作成したり、新たな情報を加えて配付するなどのカスタマイズが可能です。紙面に掲載している画像については、「指導用デジタル教材集 DVD」に収録しています。
- (5) 【新】TM 掲載補充問題・補充例文 (Word)： TM に掲載した内容理解問題と、ターゲット文法を使った例文集を収録しました。
- (6) 【新】TM 掲載 Oral Introduction 例 (Word)

⑤授業を活性化させるデジタルデータ：

【新】指導用デジタル教材集 DVD

改訂版から新たに加わった DVD には、以下の4つのコンテンツを収録しています。

- (1) 提示用教科書紙面： レッスンごとに紙面 PDF が収録されています。パートごとに見開きで提示できるので、電子黒板やプロジェクターに教科書紙面を映し出すことができます。
- (2) 新語フラッシュカード： 教科書の新語のフ

ラッシュカードで、めくる速度や手動／自動、英日／日英の順番を変えたり、選択した語のみを提示するなどアレンジが可能です。

- (3) デジタル画像集： 教科書に掲載された図版以外の、各レッスンに関連する写真や動画が収録されています。授業の導入や活動にご利用いただけます。
- (4) スピードチェンジャー付音読用ビューア：カラオケ機能付の音読用ソフト VSS が収録されています。クリックした任意の場所からスタートさせることができ、カラオケ表示以外にもフェードイン (先読み防止)／フェードアウト (読み戻り防止) などを選べたり、スラッシュリーディングに切り替えたりできます。



■指導用音声 CD

収録内容は以下のとおりです：

- ・新出単語 (2 回読み)
- ・本文 (ナチュラルスピード、スラッシュリーディング、スロースピードの3パターン)
- ・内容理解問題 Answer it!
- ・ポストリーディングのリスニング問題
- ・【新】英文要約：TM 掲載の summary 音源を新たに収録しました。

生徒用

Compass シリーズの副教材には『学習ノート』

と「生徒用音声 CD」があります。

■『学習ノート』

改訂版から教科書と同じ各パート見開き 2 ページ構成になり、予習用・授業ノートとしてより使いやすくなりました。また、レッスン末にはまとめの練習問題を 2 ページ設け、復習もしっかりできるつくりになっています。

●教科書の理解をサポート：各パートのページ

各パートのページは、教科書と同様に、左ページに本文を、右ページに内容理解問題や文法解説を配置しています。それぞれの要素をご紹介します。

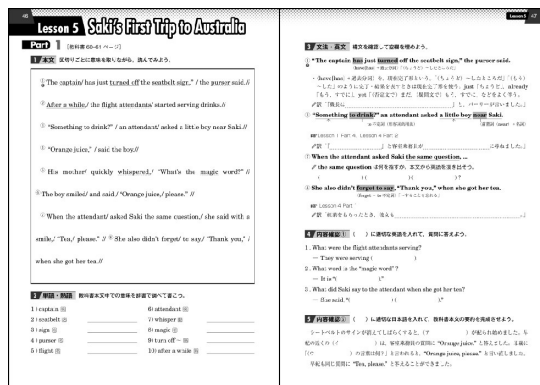
1. 本文：教科書本文に、文の番号とスラッシュリーディングの区切りを入れました。区切りごとに意味を取りながら音読したり、また、広めの行間に注意事項や訳などを書き込むことができるようになっていきます。
2. 単語・熟語：文中で使われている品詞を添え、辞書を調べるときの手がかりとしました。
3. 文法・英文：そのパートのターゲット文法や、注意すべき構文、既習の文法の再確認など、本文を読む際の確認点や注意点をピックアップして解説し、確認問題を用意しました。
4. 内容確認①：教科書の右ページ掲載の Answer it! を穴埋め形式にし、授業で英問英答できるよう補助します。
5. 内容確認②：本文の日本語要約を穴埋めすることで、本文の内容をきちんと理解できているかを確認します。

●学習項目の理解を定着させる：

Exercise のページ

各レッスン末の Exercise では、そのレッスンで学習した単語・熟語・文法事項を別のアプローチから再確認するとともに、本文の内容理解を T/F 問題や英文要約の穴埋めの形で深めます。

1. 単語：簡単な英語で書かれた語釈にあてはまる単語を選択する設問です。英英辞典のスタ



イルになじむ第一歩にもなります。

2. 発音：アクセント問題や音素の相違問題で、入試や資格試験の問題形式に少しずつ慣れることができます。
3. 文法：そのレッスンで学んだ文法の定着を確認する選択・並べ替え問題です。文脈の中で解答できるよう、設問同士につながりを持たせたり、対話形式にするなどの工夫をしました。
4. 表現：新出フレーズを使った簡単な英作文問題で、書く力を育成します。
5. 内容確認①：教科書掲載の T/F 問題とは異なる 5 問で内容理解をさらに確認します。
6. 内容確認②：キーワードを空所に埋めて英語の要約文を完成させる問題です。前半レッスンでは選択肢を与えるなど、段階的に慣れるように配慮しました。

また、解答・解説集では、解く際のポイント解説や既習項目への注意喚起などをていねいに行い、生徒のスパイラルな学習が可能となるよう内容を充実させました。

■生徒用音声 CD

●音読・リスニングに役立つ

生徒用音声 CD には教科書本文をナチュラルスピードとスロースピードで収録しました。さらに、新出単語もパートごとに収めたので、1 語ずつ発音を確認し、音読に役立てられるようになりました。

Departure

English Expression

Departure English Expression I, II Revised

を使って確かな表現力を伸ばす

山岡憲史



■「英語表現」の授業を見て

現行の学習指導要領のもとで、高校生の4つの技能を統合的に伸ばす指導が本格的に始動して4年が経過しました。この間の「英語表現」の授業はどのように変わったのでしょうか。

研究指定校など授業改革に取り組む高等学校では、「コミュニケーションを支えるための文法」という意識がかなり浸透してきており、文法の持つ機能を生かした言語活動が行われています。

しかし、「英語表現」における文法や活動には次のような課題があるように思います。

- (1) inputの方法や「総合参考書」の活用法
- (2) formの定着のための訓練の在り方
- (3) 知的好奇心を育てる文法中心の活動の方法
- (4) 書く活動と話す活動のつなげ方

■表現力を伸ばす

英語の表現力をつけるために文法の知識が重要であることは言うまでもありませんが、文法の知識だけで表現力が伸びることはありません。speakingには言いたい情報を何とか伝えるための方略や、表現の機能や使用場面および appropriateness を理解して、適切に使用できる力が必要です。一方、書く表現力には、話す場合以上に文構造の正確性ととも、文章構成に関わる paragraph writing の技術を欠かすことはできません。また文法の知識を定着させ使えるようにするには、理解させた後ですぐに活動に移っても効果は少なく、またその活動も自分の体験等を話す程度の知的な刺激の少ないものでは、確実な表現

力につながりません。知識を表現力に転化させるためには、表現に使える文法事項を精選して習得させ、inputの後にはformを定着させるための適切なドリルを行い、生徒が表現したくなるような information gap の豊かなテーマで話させたり書かせたりするという手順を踏まなくてはなりません。さらに、書いた後には話す、話した後は書くという2技能を使った活動を取り入れ、相互の影響による気づきを促すことで表現力が強化されていきます。

inputではできるだけ一方的に解説する時間を少なくして生徒の主体的学習を促し、ドリルは単調になることを極力避けるため、文脈のあるものや興味深い内容のある文例で行いたいものです。また、文法を意識的に使う Planned Focus on Form の言語活動は、テーマが平易なものになりがちですが、高校生の知的好奇心に訴えかけるテーマで表現させたいものです。

■『Departure 英語表現』の文法の扱い

改訂版『Departure 英語表現 I』(以下 DI と表記)では、表現の幅を広げることができるよう、初版の文法項目を増やし、1レッスンの例文を最大10文としました。授業における文法解説をできるだけ省力化するために、使い方や機能・ニュアンスの注記をつけていますが、限られた時間の中ですべてを詳しく説明することには限界があると思われます。そこで、初版からの基本方針である「使えるための文法理解」を促進するために、学習者の主体的な学習を促すことが肝要です。その

必要に応えるべく、今秋刊行される『ジーニアス総合英語』の併用をご検討ください。この参考書は、語法や表現の持つ機能や話者の心情の解説に定評がある『ジーニアス英和辞典（第5版）』との緊密な連携を図り、DIが扱う文法事項理解を全面的にサポートするべく、学習者にわかりやすい解説を心がけて丁寧に編集されています。従来の「総合参考書」が記述している文法形式と意味だけでなく、その機能や発話の意図やニュアンスにまで理解を深められる次世代の参考書としてお役に立てることと確信しています。

改訂版『Departure 英語表現 II』（以下DIIと表記）では、DIで扱った文法事項を表現の観点から整理し（Part 1）、機能別に再度復習します（Part 2）。ここでも、『ジーニアス総合英語』で学習した基礎力が大いに役立ち、さまざまな表現様式を使う観点で学ぶことができることでしょう。

■『Departure 英語表現』の文法演習

前述のとおり、文法を理解した後は演習によって習熟することが求められます。DI、DIIとも、語句整序、和文英訳など従来の形式の演習問題のほか、DIでは新たに、文章の中で文脈から文法の働きを理解させる空所補充問題と、grammar-ingの手法を使った英文完成を導入しました。これらは、形式に慣れさせるとともに、文法を活用して英文理解や表現につなげるための演習です。問題の例文の内容はDI、DIIともそのレッスンのテーマに即しています。レッスンが進むにつれて高度な内容の文が増えますが、後の表現活動への助走であるとともに、テーマに即した語彙や表現を学習させるという意図が込められています。

また、文法の演習を充実させるために、付属教材として『グラマーノート』を完備しています。生徒の理解度に応じて、「ベーシック」と「スタンダード」があり、文法解説も加えていますので、家庭学習用として活用していただけるでしょう。

■『Departure 英語表現』のlisteningとreading

DI、DIIにはともに、writing活動の前にlisteningとreadingのタスクを用意しています。この活動が意図することは、文法事項が実際の対話や文章の中でどのように使われているかを理解させることと、writing活動に内容的、形式的に参考となるような例を示すこと、そして、聞く力と読む力を鍛えるためです。「コミュニケーション英語」で言語活動が増えたことの課題として、読解量が不足しがちであるという悩みをよく聞きますが、それを補充するためにも、また、生徒の批判的思考力を鍛えて表現への意欲につなげるためにも、テーマに焦点を当てたこれらの受容的活動は非常に意義があると思われます。

■『Departure 英語表現』のwriting

DI、DIIの最大の特徴として多くの先生方から高い評価を得ているのがwritingのタスクです。writingは、前述のごとく文法知識の正しい援用とともに、書くべき内容を整理し論理的に構成を考え、cohesionやcoherencyに配慮して完成しなくてはなりません。従って、論理的なわかりやすい文章を書けるようにするには「～について100語程度の英文を書きなさい」という指示を与えてたくさん書かせるような指導ではなく、手順を追って徐々に書き方を習得させる指導が大切です。

このような考え方のもと、DI、DIIでは丁寧にprocess writingの手ほどきをしています。まずDIでは、質問に答えたり文や表を完成したりして書くべき内容を引き出し、model paragraphを参考に1 paragraphを完成できるように導いています。語数も最初は50語程度から始め、最終的には100語のparagraphを書けるように手順を踏みます。DIIでは文章の中に自分のアイデアを埋め込む形でDIの復習をし（Part 1）、reading素材のKeynote Passageの文章構造を

Outlining で分析した後、テーマに基づいたキーワードを参考に、Keynote Passage と同じ構成で 1 paragraph を完成させます (Part 2)。さらに、Part 3 では、アイデアのマッピングを行って topic sentence を決め、それに supporting sentences を加えて根拠や具体例で肉付けをし、concluding sentence へとつなぐ一連の手順を段階ごとに詳述し、複数の paragraph が書けるように指導しています。このように、負荷の低いタスクから高度な essay writing まで順序を追って書く訓練を重ねることによって、生徒の英語を書くことへの慣れと自信を育て、いい書き手を育てる工夫を凝らしているのです。DI, DII を使った writing 指導で、GTEC for Students や英検、模擬試験の writing の成績が上昇しているという事例も多く寄せられています。

writing の指導は手間や労力が要するため、未だに敬遠されがちですが、「英語力の要は書く力」という信念を形にした DI, DII の process writing で、生徒の表現力を伸ばしていただければと思います。「教科書通りに授業すれば、わざわざ言語活動を考える必要はない」—このような感想もよく聞きます。プロセスを重視した指導は、教えやすさにもつながり、添削や評価の負担を軽減するという大きなメリットもあります。

■『Departure 英語表現』の speaking

『Departure 英語表現』では即興で話すことと、書いた文章をもとに話すことの両面に力を入れています。DI と DII の Part 1・2 では最初の Warm-up でテーマに関連した質問に答えて即興で話すことでコミュニケーションの瞬発力、fluency を伸ばすことをねらいとしています。DI では文法演習の後に、学んだ文法を使って話す練習を用意し、DII の Part 4 では、読解材料をもとに考えを話す活動も盛り込んでいます。

一方、書いたものをもとに話す練習は DI・DII とも writing 活動の後に置き、まとまった内容を

論理的に話す力をつけるように配慮しています。

さらに DII では、presentation, speech, debate, discussion に46ページを割き、原稿作成や意見構築の段階から発表・議論に至るまで懇切丁寧に指南しています。まさに、次期指導要領の方向性にマッチした次世代の英語力養成をめざす内容となっています。

■大学入試、次期学習指導要領を見据えて

改訂版 DI, DII の大きな特徴を述べましたが、その他に、大学入試対応にも入念に配慮しました。前述のとおり、「読んで書く」という観点を重視していることに加え、DII の Ways to Express It で取り上げた日本語の言い換えによる英作文演習を用意して、和文英訳対策に資しています。さらに入試に頻出する学術的語彙も多く取り入れています。さらに DII の教師用指導書には、大学入試自由作文の指導実例をテーマごとに詳述しています。

次期学習指導要領では、speaking を Speaking for Interaction (SI), Speaking for Presentation (SP) に分け、5 技能 (領域) の育成を目指す方向性が打ち出されると言われています。また、主体的・対話的で深い学びを重視し、debate や presentation などのアクティブ・ラーニング型の授業展開を求められるでしょう。近い将来に予想される 4 技能型入学試験に向けて、確かな speaking 力、writing 力を身に付けさせる授業への転換も急務です。DI, DII を活用し、社会、科学、歴史、グローバルなテーマで意見を表明したり深く考えたりすることによって、「思考力」「判断力」「表現力」を養ってほしいものです。『Departure 英語表現』を効果的に活用していただき、意欲ある先生方の指導のもと、教科横断的で知的刺激にあふれ、生徒が躍動する授業が展開されることを願っています。

(やまおか けんじ・立命館大学教授)

Departure English Expression I, II Revised

副教材・教授用指導資料ご案内

編集部

■文法力・ライティング力をアップする副教材

Departure I Revised では2つの『グラマーノート』を用意しました。どちらも文法解説をした上で練習問題を解く構成になっています。1つは「ベーシック」。中学の復習ができる基礎編と教科書の文法事項を定着できる発展編の2部構成。もう1つの「スタンダード」は教科書の文法事項の定着を図った上で発展的な事項まで学習できます。また、今秋から『ジーニアス総合英語』とその準拠テキスト、ワークブックをご用意することとなりました。ご好評をいただいている『ジーニアス英和辞典 第5版』の例文と解説を多く取り入れ、信頼できる総合英語となっております。(くわしくは、p.20の記事をご覧ください。)

また、*Departure II Revised* では好評の『ライティング・サポート・ノート』を引き続きご用意いたします。教科書のPart 1とPart 2に対応したワークブックです。Part 1で文法を扱いますが、表現Iの切り口とは異なり、単文の組み立てにfocusしています。つまり、[表現したい内容のイメージ→適切な語彙と文構造の選択→書く・話す]という表現プロセスを各課で学習します。Part 2の最終目標は、文章構成に留意して、内容的にまとまりのある1パラグラフを書くことができるようになることです。『ライティング・サポート・ノート』もそれに合わせる形で構成されています。

■豊富な解答例でご指導をサポートします

教授用指導資料類も改訂版に合わせて充実させ

ました。*Departure I Revised* のTeacher's Manual は文法解説を充実させ、例文や解説に『ジーニアス英和辞典』や『ジーニアス総合英語』の要素を多く取り入れました。また、Write a Paragraphの50語～100語程度の英作文解答例を大幅に増やしました。*Departure II Revised* のTeacher's Manual も現在好評をいただいているエッセイ・ライティング指導例や生徒の英文エラーリストを、引き続き掲載いたしますのでご活用ください。

また、Teacher's Book (朱書き教科書) や指導用音声CDなど、従来の指導用資料を改訂版に合わせて改訂したものをご用意いたします。

I, IIとも指導用CD-ROMに従来の自動ディクテーション問題作成ソフトを収録。他にIについては指導用デジタル教材集DVDを新たに用意しました。現行版パワーポイント教材集をさらに使いやすく改訂したもの、英語表現フラッシュカード、スピードチェンジャー付音読用ビューアをご用意し、さまざまな英語表現活動をサポートいたします。パワーポイント教材集は先生方に教室のご事情に合わせて編集いただける形となっております。英語表現フラッシュカードは英語での発話や作文など表現活動を行う際に、各課のテーマに合わせて活用されることの多いフレーズをフラッシュカード形式で練習できるものです。また音読用ビューアは教科書のまとまった英文をカラオケ方式で音読練習できるもので、頭出しやスピードの変化を自在に行うことができます。

先生方のご授業でぜひご活用ください。

『ジーニアス総合英語』のコラムの数は100

柏野健次



私は『ジーニアス総合英語』の編集主幹の1人として全体を校閲する一方で、コラムの執筆にも携わった。本文だけでなくコラムも充実させるため、英語学習の中級者であれば文法事項をさらに深く学ぶのに役立ち、初級者であれば英語に興味を持つきっかけとなるようなコラム作りを目指した。時にやや高度な内容も含むが、高校生にもわかるような説明を心がけた。生徒だけでなく教師にも何らかの「発見」があるものと自負している。

コラムには「Question Box」をはじめ、「比べよう」、「英語の発想」、「ライティングのコツ」などの種類があり、項目数は100を数える。どれも「コミュニケーション（のための英文法）」という観点からの執筆を試みた。

本稿では、このコラムの内容の具体例を紙幅の許す限り紹介する。どのように説明しているかは5月に刊行予定の見本をご覧ください。

■[英語の発想] pleaseと「～してください」(第1章 文の種類)

pleaseは相手がその行動をすることで話し手が利益を受ける場合に使うのが基本。

Please bring me a cup of coffee.

コーヒーを持ってきてください。

しかし、話し手でなく聞き手の利益になる場合でも、話し手が心をこめて相手に行動を促す時には、pleaseを文頭で使える。

Please make yourself at home.

どうぞお楽にしてください。

話し手の利益にならず、話し手が心を込めて行

動を促すのでもない、指示や忠告を表す命令文にはpleaseをつけない。この点が日本語の「～してください」と違うので、注意が必要である。

×*Please go straight and turn left at that corner.*

×*Please take an aspirin for your headache.*

■[Question Box] Q「タイガースは明日の試合に勝つにちがいない。」を英語で言うとThe Tigers must win tomorrow's game. になりますか。(第5章 助動詞)

「推量」を表すmustはbe動詞などの状態動詞とともに使うのが基本で、動作動詞とともに使うとふつう「～しなければならない」という意味になる。したがって、Qの英文は「タイガースは明日の試合に勝たなければならない。」と取られるのがふつう。

Qの日本語を英語で表すにはbe sure toやbe bound toを使うのが一般的である。動作動詞を使って未来のことについて「～にちがいない」をどう表すかは意外な盲点かもしれない。

The Tigers are sure [bound] to win tomorrow's game.

■[Question Box] Q分詞構文はいろいろな意味で使えるので便利のように思います。英作文で使っても大丈夫ですか。(第9章 分詞)

分詞構文は主に書き言葉で用いられ、その意味は文脈で決まる。したがって、論理性を求められる文章ではあまり好まれず、あいまいさを残した

まま判断を読者に任せる小説で多く見られる。このようなことから、英語学習者が英作文で分詞構文を使うのは適切とは言えない。基本的に接続詞を使って意味をはっきりさせるように心がけた。ただし、「付帯状況」(「…しながら」「…して」)に関しては適切な接続詞がなく、分詞構文を使ってもかまわない。

ちなみに、小説では分詞構文は、「付帯状況」の意味で文末で使われることが圧倒的に多い。

■[Question Box] Q We could have talked all night. という文を見ました。if 節もそれに代わる表現もありますが、could have talked は仮定法ですか。(第12章 仮定法)

Qの英文は仮定法過去完了の例である。この文は、「(そうしようと思えば)一晩中でも話をしていられただろう。」という意味で、「そうしようと思えば」の部分が隠れた仮定の内容になっている。それくらい話がはずんだということで、実際にはそうしなかったことを表している。こういう例は数多く見られる。

cf. I could have been a good wife to Woody, but no one even gave me a chance. To them I was still a waitress. (私はウディのいい奥さんになることができたのに誰もその機会さえくれなかったわ。彼らにとっては私は所詮ウエイトレスだったのよ) — S. Sheldon, *Morning, Noon and Night*

■[比べよう!] ① My room is no bigger than a closet. / ② My room is not bigger than this room. (第10章 比較)

①のnoはbiggerという語を否定し、「広いどころか狭い」という意味で、than a closetによって部屋がどれほど狭いかを強調している。意味は「私の部屋は狭くて押し入れくらいしかない。」(=My room is as small as a closet.)となる。このように、「no+比較級」は多くの場合、

「as+反意語の原級」で書き換えられる。

一方、②のnotは文全体を否定し、「私の部屋がこの部屋よりも広いということはない。」という意味で、ふつう誰かがYour room is bigger than this room. と言ったことに対する反論として使う。

■[ライティングのコツ] 上手に使いたいwhat (第11章 関係詞)

①そこが野球の一番の魅力です。

②私の言い分も聞いてほしい。

上のような日本語を英語で表現する時は、「野球の一番の魅力」を「私が野球について一番好きなこと」、「私の言い分」を「私の言いたいこと」と読み替えることによって、それぞれ以下のように表現できる。

① That's what I like best about baseball.

② I want you to hear what I want [have] to say.

■[Question Box] Q 「彼がその部屋から出てきた」という意味でHe came from the room. と言ったらネイティブの先生からちょっと変だと言われました。「～から」はfromではないのですか? (第19章 前置詞)

fromは出発点・(移動の)起点を表す前置詞で、例えば、He came from the countryside. (彼は田舎からやって来た。)のように言うことができる。しかし、部屋のような空間から「出てくる」という中から外への動きを表す場合は、fromではなくout ofを使ってHe came out of the room.と言う方がふつう。

次の文ではfromもout ofも可能だが、out ofではハンドバッグの「中から外へ」という動きが強調される。

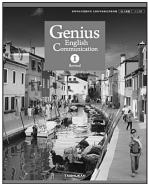
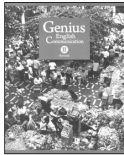
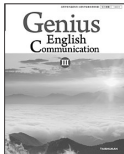
Take everything from [out of] your purse.
ハンドバッグにある物を全部出さない。

(かしの けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授)

大修館書店の副教材・指導資料のご案内

* 定価＝本体価格＋税

【Genius English Communication】

教科書	副教材	指導資料
 [コ I 338]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体620円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM 2枚) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可：本体5,000円), 情報資料・活動ワークシート集, 指導用 CD-ROM, 授業用パワーポイントスライド集 本体30,000円
	ワークブック・アドバンスト B5判・88頁＋音声 CD＋別冊解答40頁 本体700円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック) 内容：Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, サマリー例, Read On! 本文, ほか 本体15,000円
	生徒用音声 CD (2枚組) 内容：Lesson 本文ナチュラルスピード, Lesson 新出単語／本体1,000円	CoNETS 版 指導者用デジタル教科書 (Windows デスクトップ版, DVD-ROM 1枚) 本体50,000円
 [コ II 336]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 [予定] 本体予価620円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM 2枚 [予定]) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 情報資料・活動ワークシート集, 指導用 CD-ROM, 授業用パワーポイントスライド集
	ワークブック・アドバンスト B5判・88頁＋音声 CD＋別冊解答40頁 [予定] 本体予価700円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック [予定]) 内容 [予定]：Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, サマリー例, Read On! 本文, ほか
	生徒用音声 CD (2枚組 [予定]) 内容 [予定]：Lesson 本文ナチュラルスピード, Lesson 新出単語 本体予価1,000円	CoNETS 版 指導者用デジタル教科書 (Windows デスクトップ版, DVD-ROM 1枚 [予定])
 [コ III 310]	ワークブック B5判・96頁＋別冊解答24頁 本体680円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可：本体3,000円), 指導用 CD-ROM／本体18,000円
	生徒用音声 CD (2枚組) 内容：Lesson 本文ナチュラルスピード, Read On! 本文 本体1,140円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック) 内容：Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, Read On! 本文, ほか 本体18,000円

【Compass English Communication】

教科書	副教材	指導資料
 [コ I 337]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体700円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM/DVD) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可：本体5,000円), 情報資料集, 指導用 CD-ROM, 指導用デジタル教材集 DVD 本体30,000円
	生徒用音声 CD (2枚組) 本体1,000円	指導用音声 CD (5枚組＋スクリプトブック) 内容：本文 (ナチュラル/スロー, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, 英文サマリー／本体15,000円
 [コ II 335]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 [予定] 本体予価700円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM/DVD [予定]) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 情報資料集, 指導用 CD-ROM, 指導用デジタル教材集 DVD
	生徒用音声 CD (2枚組 [予定]) 本体予価1,000円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック [予定]) 内容 [予定]：本文 (ナチュラル/スロー, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, 英文サマリー
 [コ III 309]	学習ノート B5判・72頁＋音声 CD 2枚＋別冊解答28頁／本体780円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可：本体3,000円), 指導用 CD-ROM／本体17,000円
		指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック) 内容：本文 (ナチュラルスピード, スロースピード, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, ほか 本体17,000円

【Departure English Expression】

教科書	副教材	指導資料
 [英 I 327]	グラマーノート・スタンダード B5判・84頁＋別冊解答56頁 本体620円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM＋DVD) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体5,000円), 教科書ワークシート, 指導用 CD-ROM, 授業用デジタル教材集 DVD
	グラマーノート・ベーシック B5判・80頁＋別冊解答48頁 本体620円	
	生徒用音声 CD (1枚) 本体予価1,000円	指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック) 内容: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード), リスニング・スクリプト, 評価問題集, ほか
 [英 II 321]	ライティング・サポート・ノート B5判・104頁＋別冊解答72頁 本体予価570円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 教科書活用シート, 指導用 CD-ROM
	生徒用音声 CD (1枚) 本体予価1,000円	指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック) 内容: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード), リスニング・スクリプト, 評価問題集, ほか

* II の仕様・価格は予定です。

★新登場！『ジーニアス総合英語』

大修館書店から新しく『ジーニアス総合英語』が誕生します。『ジーニアス英和辞典 第5版』, *Departure English Expression* シリーズと連携させれば, さらに充実した英語学習が可能です。内容についてのご紹介は, 20ページをご覧ください。

ジーニアス総合英語 (オールカラー) A5判・656頁 本体予価1,500円	準拠テキストブック	ワークブック
	46 Lessons (2色刷) B5判・144頁＋別冊解答解説書 本体予価640円	46 Lessons B5判・96頁＋別冊解答解説書 本体予価540円
	27 Lessons (2色刷) B5判・136頁＋別冊解答解説書 本体予価620円	27 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体予価540円
	23 Lessons (2色刷) B5判・128頁＋別冊解答解説書 本体予価600円	23 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体予価540円

* 他に自動問題作成ソフト・音声などもご用意いたします。

* 頁数は予定です。

著者紹介

◎**編集主幹** 中邑光男 (関西大学教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員), 山岡憲史 (立命館大学教授・*Departure English Expression* 編集委員代表), 柏野健次 (大阪樟蔭女子大学名誉教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員 [語法])

◎**編集委員** 加藤治之 (京都府立嵯峨野高等学校教諭・*Departure English Expression* 編集委員) / 富永幸 (滋賀県立膳所高等学校教諭・『ジーニアス英和辞典』執筆者) / 吉田健三 (神戸大学アドミッションセンター特命准教授・*Departure English Expression* 編集委員) / 福崎伍郎 (代々木ゼミナール講師) / 北野マダ・レーナ (文教大学専任講師) / ほか1名

◎**英文校閲** Lance Eccles (『ジーニアス英和辞典』英文校閲者)

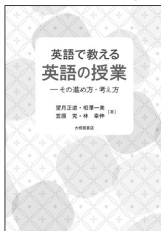
英語で教える英語の授業

その進め方・考え方

望月正道・相澤一美・笠原 究・林 幸伸 著

A5判・202頁
本体1,800円＋税

[評者]
今井裕之



「英語で授業」の Why & how がわかる

教育政策は、時としてキーワードだけが先行流布し、思いがけない解釈を生み、あらぬ方向に進んでしまうことがある。本書の取り上げる「授業は英語であることを基本とする」についても、これほど明確で誤解のないものであっても、その意義や方法 (Why & How) を考え、実践し、省察を教員間で繰り返していかなければ、教員も生徒も日々戸惑い苦しむ結果になってしまう。本書は、教員養成、語彙習得、評価論、指導法や教材論など多面的な専門分野を背景に持つ英語教育研究者が、キーワード「英語で授業」を、その意義や具体的な方法について丁寧に解きほぐす待望の書である。

第一部 「英語で授業」の考え方 では、読者の Why? にこたえる。認知主義的な第二言語習得モデルを基礎としつつ、理論に終始せず、より具体的な指導技術と授業展開にまで解きほぐされている。第二部 「英語で授業」の構成要素 では、第一部で示された「英語で授業」の授業展開に沿って授業実践事例が提案されている。ウォームアップ、新教材提示・説明・練習、コミュニケーション活動、発展活動及び評価ま

で、それぞれについて教員と生徒の発話事例、イラスト、ワークシートなどを示して授業場面が描写されるので、具体的にイメージしやすく、授業を疑似体験しているようで面白い。新教材提示では、フォーム (文法) 指導とコンテンツ中心の指導の両方が取り上げられていて手厚い。コミュニケーション活動でも、インフォメーションギャップだけでなくオピニオンギャップ活動が取り上げられていて充実している。第三部 4 技能別の「英語で授業を行う」ポイント では切り口が技能別に変わる。各技能の認知プロセスモデル、指導上重要なポイント、指導案事例の順に提示される。各技能での指導手順やその際の語彙の取り扱い方などが、理論的にも具体的にも (生徒の学習方略や典型的なエラー事例など) 丁寧に解かれていて、固い理論が順を追ってほぐれていく。技能別ではないが、中学校の指導事例も掲載されている。第四部 授業を振り返る視点 は、授業外での教員の取り組み (授業省察、トレーニング、生徒の家庭学習支援) について、簡潔ながら具体的に何をすべきかがまとめられている。

「英語で授業」について賛否はあるが、本書は賛否の議論を超えて、英語授業改善を目指す教員すべてに有益である。「英語で授業」に否定的な読者も、第三部を読み終わる頃にはおそらく「明日の授業でこれ試してみよう」と授業改善を目指す人になっていると思う。現職教員だけでなく、教員養成課程で学ぶ学生、教員養成に携わる研究者にも是非薦めたい「タイトル以上の本」である。

(いまい ひろゆき・関西大学教授)

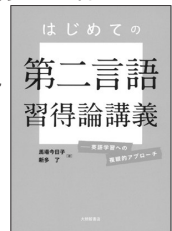
はじめての第二言語習得論講義

英語学習への複眼的アプローチ

馬場今日子・新多 了 著

A5判・218頁
本体1,900円＋税

[評者]
白井恭弘



気鋭の SLA 研究者による、最新の第二言語習得論入門書

2012年に大修館書店から『英語教師のための第二言語習得論入門』という第二言語習得の概説書を出版させていただいた。その本を書いたきっかけは、2008年に出した岩波新書の『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』が、一番読んでほしいと思っていた英語の先生方にあまり読まれていないという話を聞いたことである。実際、第二言語習得 (Second Language Acquisition=SLA) という研究分野について、何も知らずに英語を教えている英語教師は多いし、ある程度知っていても、SLA は second language だから、日本のような外国語 (foreign language) 環境では関係ない、などと間違った認識を持っている人もいるようだ。

2016年に発行された本書は、SLA の初期から最新の研究まで網羅しており、拙著を読んでいた方にも、そうでない方にもおすすめできる。

本書は以下の10章から成る：第1章 第二言語習得研究とはなにか、第2章 なぜ人は言葉を習得するのか、第3章 母語と第二言語はどのように影響を与え合うのか、第4章 第二言語習得はどの

ように始まったのか、第5章 第二言語学習についての2つの見方、第6章 第二言語習得研究と外国語教育、第7章 どのような人が第二言語学習に向いているのか、第8章 どうすればやる気を持続することができるのか、第9章 英語学習は早く始めるべきか、第10章 第二言語習得の新しい考え方。

各章では、それぞれ2つの考え方を対置し、それらを元に読者が自らの考えを深められるようになっている。たとえば、第2章ではチョムスキーとトマセロの言語習得理論が比較対照されている。

また、本書の10章で取り上げている複雑系理論は、最近のSLA研究で注目を浴びている考え方であり、教室における学習者の習得過程を理解するうえでも非常に有効である。

また、本書では、「具体的な例を挙げる」ことを標榜しているが、これは非常に重要なことで、いくら難しい理論を学んでもそれが日常の学習者の活動と結びつかなければ、教育実践の向上に役に立つ可能性は低いであろう。その意味で、本書を読み進めることにより、理論と実践をつなげるという習慣が身につく。

著者は気鋭の第二言語習得研究者で、それぞれイギリス、カナダの名門大学で博士号を取得、一流海外ジャーナル(Language Learning, Language Testing)などに論文を発表している。本書は信頼できる1冊といえよう。ぜひ一読をおすすめしたい。(しらい やすひろ・ケースウエスタンリザーブ大学教授)

ガーデニングとイギリス人 「園芸大国」はいかにして つくられたか

飯田 操 著

四六判・360頁
本体3,300円＋税

[評者]

磐崎弘貞



ハイパーガイドブックにもなる 研究書

これまで、パブ、愛犬、釣りなどを通して英国のイングリッシュネス解明に迫ってきた著者が、次に選んだトピックが庭だ。

英国庭園については、私には従来いくつか謎があった。たとえば、イングランド北部のマナーハウス、ハワード城は、主ホールの美しさに加えて、大陸風の大庭園そのものも壮麗で何度行っても飽きない。その点、本書の口絵にもなっているチャッツワースでは、階段状の人工滝を持つ小高い裏庭に座って前方を見ると、おそろしく広大で牧歌的な風景が広がり、あたかも自分が風景画の一部になったように感じられる。明らかに風景の見せ方が違うのだ。ならばと、英国庭園愛好者のメッカとも言えるヒドコートマナーガーデンにも行って見たが、今度は草木の配置があまりに「自然流」で、貧相に見えてしまうのだった。「すいませんが、この庭のどこがすばらしいのでしょうか」と横にいた老夫婦に丁寧に聞いたつもりだったが、むっと呆れられたのを思い出す。

本書を読み進めると、こうした状況の背景がパズルを解くように見えてくる。その語りは歴史的な

概観を基軸としており、本来岩だらけの島だった英国に海外から植物が持ち込まれ始める16世紀以前、王侯貴族がヨーロッパの影響で大庭園を造り始める16～17世紀、英国独自の庭園意識が芽生える18世紀、風景庭園の反発も出始める19世紀、そして新しい「イングリッシュ・ガーデン」が胎動する19世紀末～20世紀、平和な花作りが始まる1920年以降という構成となっている。

これによって、「英国民＝ガーデニング好き」といった単純な構図の背景には、実は政治的・経済的な策略や権力誇示が大きく影響していることを知らされる。たとえば、土地の持つ美的な可能性(capability)を追求する庭師ケイパビリティ・ブラウンは、貴族の庇護のもと、丘や樹木や川の流れまでも変え、場合によっては村全体(!)を移転させた上で、あくまで<自然な>風景庭園を追求した。その一方で、庶民による「古き良きイングランド」への回帰を目指すコテージ・ガーデンも、現在のイギリスには同居しているのである。どれも「これこそが英国の庭園だ」と言えるわけではなく、それぞれがその時代の特徴を反映しているわけだ。

本書には、資料画や写真も多く、何といっても索引が完備しているので、実は、庭園・古城・マナーハウスに興味を持っている人にとっては、観光ガイドブック以上の情報を得られるハイパー・ガイドブックにもなってしまう。ぜひ、持ち出す研究書としても活用いただきたい。そして、本著者の次なる「イングリッシュネス」解明のトピックに期待したい。

(いわさき ひろさだ・筑波大学教授)

大修館書店の本

◆人生に効く、ことばの妙薬

思わず使ってみたくなる 知られざることわざ

時田昌瑞＝著

(四六判・210頁・本体1,700円＋税)

◆思春期からの関わり方が人生を変える！

「生き抜く力」の育て方——逆境を成長につなげるために

蝦名玲子＝著

(四六判・234頁・本体1,800円＋税)

◆議論によって進める新スタイルの授業

〈アクティブ・ラーニング対応〉日本語を分析するレッスン

野田尚史，野田春美＝著

(A5判・176頁・本体1,500円＋税)

◆名前を通して理解するイスラームの「こころ」

人名から読み解くイスラーム文化

梅田 修＝著

(四六判・186頁・本体1,800円＋税)

◆読み手のことを考えて書いていますか？

読み手に伝わる公用文——〈やさしい日本語〉の視点から

岩田一成＝著

(四六判・184頁・本体1,700円＋税)

営業便り



▶先日、スノーボードをするためにスキー場に行きました。そこでは、今まで行った場所とは段違いの積雪量と吹雪、そして訪日外国人の多さに圧倒されました。ひとしきり滑ったあと休憩所に行くと、そこにも多くの訪日外国人がおり、室内では英語が飛び交っていました。そこにあるストーブを友人と訪日外国人の人々と一緒に囲んだのですが、会話はゼロ。できて挨拶程度でした。▶あとから考えると勿体なさを感じ、もっと話せばなあと後悔しました。また、言葉を発信する力や他者に自分から働きかける大切さを痛感しました。もしアクティブラーニング型授業を受けたら自分にもこういう力が身に付くのでしょうか。▶来る2020年には東京オリンピックも予定されており、今後も訪日外国人は増加の一途を辿るでしょう。日本を訪れた人に対し、慣れない習慣や場所で困っている所を助けるだけではなく、思いやりの心で働きかけられるように、また自分自身もっと相手とのコミュニケーションを楽しむことができるように、再び英語を勉強し始めようと思います。(東京支店 竹村友里)

編集後記

▶ケニアの少女と手紙のやりとりをしています。それぞれの母語ではない、英語によるコミュニケーションです。辞書を引き引き継ぎはぎだらけの作文をする当方と違い、彼女はどんどん基本語彙での多様な表現を身につけていきます。背景には、初等教育段階から英語による授業が行われるという同国の教育事情がありますが、初めは絵と単語だけだったのに、次第に文となり、前は見られなかったこんな構文が…などと興味深く、刺激を受けて私も共に学ぶ機会となっています。▶いま、英語の教科書には世界のさまざまな情報が紹介されています。教科書を読めば、英語の知識だけではなく、英語を通じて見えてくるいろいろな価値観、物の見方も学ぶことが可能です。世界に関心を広げていく面白さを生徒が実感し、成長していく姿を見る喜びについても今号ではふれられています。改訂により工夫をこらした英語教科書・教材の自己表現活動を通して一層の成長のきっかけになることを願っています。(湯)



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

Genius・Compass・Departure

英語通信

第59号

2017年4月15日発行

(年2回発行)

編集人：「G.C.D.英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2293(編集部)／(03)3868-2651(販売部)

【出版情報URL】<http://www.taishukan.co.jp> 【振替】00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕